



2025年7月28日

発行 白百合女子大学児童文化研究センター

〒182-8525 東京都調布市緑ヶ丘 1-25 TEL 03-3326-7994 FAX 03-3326-1319

https://www.shirayuri.ac.jp/course/childctr/index.html e-mail: jido-bun@shirayuri.ac.jp

編集 白百合女子大学児童文化研究センター

沼本知自氏 博士号取得

本センター研究員である沼本知自氏が、二〇二五年三月に博士号（課程博士）を授与されました。児童文学専攻では十人目の博士号取得者です。

審査には審査委員長の波多江洋介先生（本学教授、発達心理学専攻）、主査の浅岡靖央先生（本学教授、児童文学専攻）、副査の間宮史子先生（本学教授、児童文学専攻）、森下みさ子先生（本学教授、児童文学専攻）、外部審査員の宮川健郎先生（武蔵野大学名誉教授）があたりれました。

博士論文要旨

「認知言語学における事態把握を用いた日本児童文学作品の研究―「さよなら未明」以前の作品と以後の作品とを比較して―」

沼本知自

本研究の目的は、認知言語学における事態把握という概念を用いた日本児童文学作品の分析・考察によって、言語学の知見に基づく児童文学研究の有効性を確認することである。

序章では、これまでの日本児童文学研究の歴史において、言語学的視座から日本の児童文学作品を究明しようとする機運は幾度かあったにも関わらず、現在に至るまで日本の児童文学作品に対する言語学的な分析理論・方法はいまだ確立されてはいない、という問

題意識が、本研究の目的の動機であることを述べた。

第一章では、戦後の日本児童文学研究・創作に多大な影響を与えた古田足日「さよなら未明―日本近代童話の本質―」（一九五九、以降「さよなら未明」とする）について、それが、児童文学作品における言語表現を対象として、言語学的な側面から究明しようとした論考であることを示した後、「さよなら未明」における「赤いろうそくと人魚」を論じた箇所を新たな視点から読み直すことで、古田の論が、物語における場面の捉えられ方、描かれ方に基づく（読み）を前提として論を展開していたことを示した。そして、場面の捉えられ方、描かれ方こそが、認知言語学における事態把握という概念と極めて近いことを示すことで、「さよなら未明」とこの概念との接点を示すとともに、「さよなら未明」以前と以後の日本児童文学作品における事態把握の特徴と傾向を比較し整理することが、児童文学研究に新たな知見を与えることを述べた。

第二章では、理論言語学史を概観することで認知言語学の成立までを確認し、その後、事態把握が認知言語学の中で、認知文法論という体系の中に位置付けられる概念であることを示した。そして、本研究の核となる事態把握についての定義、および、その類型として主観的把握と客観的把握と呼ばれる事態の捉え方について詳述した。さらに、それに隣接する概念、および、関連する学説や研究についての知見も示すことで、日本児童文学作品を分析する際の、より具体的な方法や着眼点について示した。

第三章では、「さよなら未明」において取り上げられた作品を中心とした計七作品（小川未明「赤いろうそくと人魚」「金の輪」「野ばら」、立原えりか「シ

ラカバのゆめ」「人魚のくつ」、千葉県三「シヨンペン稲荷（みちのこ）」「ばけねこたいじ」を対象に、事態把握における特徴を明らかにするうえで有効であろう箇所を取り上げ、地の文において、場面がどのように描かれているかということに着目し分析を行った。

第四章では、古田足日「さよなら未明」以後の戦後日本児童文学作品として計五つの作品（古田足日「宿題ひきうけ株式会社」、後藤竜二「天使で大地はいっぱいだ」、灰谷健次郎「兎の眼」、安房直子「さんしょつ子」、那須正幹「それいけズッコケ三人組」）を対象に、事態把握における特徴を明らかにするうえで有効であろう箇所を取り上げ、地の文において、場面がどのように描かれているかということに着目し分析を行った。

第五章では、第三章及び第四章において行った各作品の分析に基づき、「さよなら未明」において古田が示した小川未明と千葉省三に対する相反する評価が、言語学的に認められることを示した。さらに、事態把握を用いた分析によって、「さよなら未明」が、言語表現の観点から戦後日本児童文学作品に影響を与えたということを示した。これらのことにより、言語学の概念を用い、日本児童文学作品を対象として分析することが可能であること、及び、それが児童文学研究分野に新たな知見をもたらす視座となり得ることを示した。

終章では、第一章から第五章にかけての言語学的概念を用いた分析と考察の積み重ねにより、「さよなら未明」という論考が、以後の日本児童文学の創作や評における言語表現の在り方・取り組み方に対して一定の影響を与えたことが、論証できたことを述べた。こ

れをもって、はじめに示した本研究の目的が達成できたことを確認した。また、今後の課題として、古田が「散文（性）」と呼び、その後の日本児童文学の方向性として掲げられた「散文性の獲得」とされるものの実態を明らかにするために、事態把握を用いたより広範な作品分析が必要なこと、および、認知言語学における他の概念を用いた多角的アプローチによって、児童文学研究における言語学的な分析方法を構築していくことの二点を述べた。

〔研究員〕

センター主催講演会報告

二〇二四年度は、第七十二回研究会といたしまして、本学元教授で、現在は非常勤講師として「児童文学・カナダ」の授業を担当の白井澄子先生をお招きし、ご講演いただきました。

第七十二回研究会

白井澄子先生講演会

講演者 白井澄子先生（元本学教授・非常勤講師）
 題目 TVシリーズ「アンという名の少女」の挑戦
 日時 二〇二四年七月二十七日（土）十三時～十五時
 会場 白百合女子大学 三三〇三教室
 司会 酒井志麻氏（本学助教）

講演会では、二〇二〇年にNHKで放映された「アンという名の少女」(CBC・Netflix共同制作、二〇一七―二

〇一八年)について、原作との違いに注目し、この映像化によって新たに提示されたトピック——具体的には、「アンという名の少女」で加わったエピソードや、原作にない登場人物、既存の人物に新しく付け加えられた属性——に関する考察がなされました。

新たに加わったエピソードとしては、たとえば孤児院時代のアンのトラウマティックな記憶、アンがカスパート家の正式な養女となる手続きをする場面、アンの秘密の隠れ家、ゴールドラッシュに踊らされるアヴォンリー、アンとギルバートの同志的なつながり、カナダにかつて存在した有色人種が暮らす地区「ボグ」、奴隷制度とその廃止によって生じた世代間の意識の違い、先住民寄宿学校、性的マイノリティの人物たちの生き方といったように、映像化を通じ、より写実的かつ詳細に扱われる場面や心理描写、さらには、カナダの歴史のなかで起きた事件や現代の私たちをめぐる身近な問題まで含みこむ、多彩なものでした。先住民寄宿学校に言及する際に紹介された絵本『わたしたちだけのときは』(D・A・ロバートソン文、J・フレット絵)^注は、悲しく憤ろしい歴史を扱っていますが、温かみのある愛らしい絵が魅力的な作品です。

新たな登場人物や既存の人物に新しく加えられた属性についても、話題は盛りだくさんでした。黒人青年セバスチャン、北アメリカ大陸の先住民(特に、ミクマク族の少女カクウェット)、女性パートナーへの愛を堂々と語るダイアナのおばジョゼフィーヌ、ジョゼフィーヌとの同居により居場所を得る芸術家気質の少年コール、自らの意志をつらぬき進学を掴み取る、アンのクラスメイトの少女たち……「アンという名の少女」がどれほど挑戦的な作品であったかが、よく分かりました。

講演会の終盤では、本作の映像化の手法——原作に含まれている事柄やエピソードを發展させ、その裏にある社会

背景を取り入れて新たなエピソードを創造するというもの——についても言及がなされました。このような手法に喩える白井先生の言葉が美しく、耳に残りました。

ご講演くださった白井先生と、ご参加いただきました皆様に、心よりお礼申し上げます。

注 デイヴィッド・アレキサンダー・ロバートソン文、ジュリー・フレット絵『わたしたちだけのときは』横山和江訳、岩波書店、二〇一八年。Text by David A. Robertson, Illustrations by Julie Flett. *When We Were Alone*. Houghton Mifflin Harcourt Press, 2016.

一八七〇年代から一九九〇年代までカナダで続けられた同化政策の一つである先住民寄宿学校での体験と、この抑圧に対する子どもたちがげなげに抵抗するさまを、今は穏やかに暮らす先住民のおばあさんと孫娘とのやり取りを通じて語る作品です。白井先生は、二〇一九年三月発行の『開花宣言』第十一号に、この『わたしたちだけのときは』を同化政策と言語という切り口で考察する論考を寄稿していらつしやいます。

『開花宣言』は、本学人間総合学部児童文化学科で毎年開講される「出版演習Ⅰ・Ⅱ」の受講生が企画や編集作業を行い、一年かけて作り上げる雑誌です。継続前誌は一九八九年創刊の『百合児童文化』です。『百合児童文化』と『開花宣言』は、大学図書館ウェブサイトの学術資源検索システム「百合女子大学 学術リソース」の「天字刊行物目次検索」を用いて、目次情報を検索することができます。

本記事でご報告いたしました講演会の講演録は、『百合女子大学児童文化研究センター 研究論文集28』に収録され、大学図書館ウェブサイトの「百合女子大学 学術機関リポジトリ」で全文公開も行われております。当日、会場にいらつしやることができなかつた方も、ぜひご覧ください。

新任の先生の紹介

二〇二五年四月、トミヤマユキコ先生が本学児童文化学科に着任されました。今号では、トミヤマ先生にご寄稿をお願いし、自己紹介をしていただきます。

マンガ研究者のこれまでとこれから

トミヤマユキコ

自己紹介をするときは「キャリアがとっ散らかっていません」と謝ることにしています。フリーライター、マンガ研究者、大学教員、テレビ・ラジオのMC……興味のあるものすべてに手を出していたらこんなことに。

思い起こせば「ワセダ、かつこい」みたいな理由(雑!)で早稲田大学を受験した時点で、こうなることは決まっていたのかもしれませんが。一浪ののち法学部に入ることができたのですが、法律の勉強はまったく向いていませんでした。これじゃいかんと思い他学部の授業にもぐりまわって、大学院では日本の近代文学を研究することに。ようやく夢中になれるものを見つけたと思いきや、努力が空転する感じがかり、論文を書いてもらえず、じわじわと登校拒否状態に陥ってしまいました。

大学院をやめようと思いはじめた二〇代終わりにマンガと出会いました。幼い頃、親にマンガを禁止されて育ったため、マンガのことはよく知りませんでした。が、それがかえってよかったです。異文化や外国語に触れるときのような緊張と高揚がありました。

マンガと言ってもいろいろありますが、わたしが手に取

ったのは、雑誌『フィールヤング』に代表される「ヤング・レディーズ」ジャンルの作品。二〇代〜三〇代の女性が紆余曲折ながらも自分の人生をつかみ取るとうとする姿にとっても励まされました。多くの読者が恋愛モノとして読むであろう物語群ですが、わたしが注目したのはヒロインたちの仕事ぶり。このひとたち、みんな働いているな——自分が大学院をやめた後、どうやって食い扶持を稼ぎ、生きていくべきか。それがわからなくて、彼女たちの働き方を参考にするような気持ちで読みました。

結果としてそれが研究のタネになりました。わたしは文学からマンガへと研究対象を変え、マンガの中の労働系女子を追いかけの中で、ようやく研究者になったのだと思います(しばらく姿を見せないなと思っていたら「マンガで博論を書かせてくれ!」と言いだすわたしを見て指導教員は驚いたと思います。本当に悪いことをしました)。

博士論文を書いた後、学術的な本としてまとめることはせず『労働系女子マンガ論!』というエッセイ風の本に仕立て直したのは、本業はライターだという意識があるから。一般書と学術書の間位置するようなものを書くことで両ジャンルを繋げることができればと思っています。

専任講師として最初に勤めたのは東北芸術工科大学です。本当に楽しく働かせてもらったのですが、大学院生を指導する機会がありませんでした。白百合ではそれができるのでうれいんです。院生のみなさんには、わたしを反面教師として、遠回りせずにナイスな研究対象を見つけてほしい気持ちがあります。また、スランプの院生には「こんなひとでも大学の先生になれるんだから」と安心してほしい気持ちもあります。いずれにせよ、この白百合で、いまの自分にできる研究・教育を、手抜きしないでやってみるつもりです。どうぞよろしくお願いいたします!

〔本学准教授・所員〕

資料紹介

『ちりめん本 海を渡った日本昔ばなし

—Japanese Fairy Tales—

尾崎るみ監修 浜名那奈訳 東京美術 二〇二五年

本センター研究員である尾崎るみ氏が監修と「コラム」および「メモ」を、同じく研究員の浜名那奈氏が日本語訳等を手がけられた、ちりめん本の影印本が刊行されました。両氏はセンタープロジェクトの一つである「ちりめん本研究プロジェクト」のメンバーです。

本書は明治十八(一八八五)年に長谷川武次郎が出版したちりめん本版「日本昔噺」シリーズより、英語版十作品を選び、広告頁と裏表紙を除いて影印したものです。刊行にあたり、白百合女子大学図書館所蔵資料が活用されています。広告頁や裏表紙に代えて新たに付された各作品の章扉には、主要なキャラクターの絵姿と彼らの英語名、そして、それぞれのお話を象徴するアイテムや名脇役たちが配されており、読者を昔話の世界に誘います。

本書の「コラム」では、国際出版の先駆けだった「日本昔噺」シリーズの要点が、誕生の経緯、刊行に協力した日本人絵師や、欧米の知識人といったトピックごとにまとめられています。「コラム」よりさらに簡潔な「メモ」は、その名の通り、「日本昔噺」シリーズの翻訳の特徴や刊行の立役者となった人物に関する覚え書きです。ちりめん本を専門としていなくとも、「コラム」や「メモ」で基礎知識を頭に入れた上でテキストにあたるることができます。

英語圏の読者に向けて翻訳された昔話を、現代の日本語

に訳した本書の訳文は新鮮な印象を与えます。たとえば「The Old Man and the Devils 癩取」では、鬼はデヴィル、酒はワインとなり、まるでヨーロッパのお話のようです。しかし一方で、軽快なリズムのある英語によって叙述されたおじいさんの踊りのさまを「ひよいひよいなど」（二三五頁）と、日本語に多く見られ特徴的とされている、オノマトペを用いて訳す場面も見られます。

日本の木版と西欧の活版印刷が同居するちりめん本。そのハイブリッドな魅力を、本書は様々な工夫を通じ、伝えていきます。

白百合女子大学図書館の

ちりめん本に関するリポート

白百合女子大学図書館のちりめん本コレクションについて

深民麻衣佳

みなさまには日頃から図書館をご利用いただいておりますが、貴重書室や準貴重書室の資料に触れる機会は、なかなかないのではないでしょうか。今回ご紹介するのは、貴重書室で保管されているちりめん本コレクションです。

ちりめん本は、明治期に長谷川武次郎によって出版された欧文絵本です。現代の本とは全く異なる木版摺りの和綴じ本で、最大の特徴は紙の質感です。摺り上げた紙に無数の皺をつける特殊な加工がされており、まさにちりめん布のような柔らかい手触りをしています。

本学には、長谷川武次郎以外の出版者によるものも含め、約百二十点の資料が所蔵されています。これら資料の言語

は、英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、ポルトガル語の五か国語に及びます。

ちりめん本コレクションの収集が始まったのは、一九八五年の児童文化学科増設から間もない一九八七年。当時、学科にいらした鈴木重三先生が図書館運営委員を務められていた時に、英語版『Japanese Fairy Tales』（日本昔噺）シリーズ一揃いを購入されました。江戸文化の研究者であった先生は、原資料に触れることの大切さを説かれており、研究対象となる児童文化財が学生の身近な場所に置かれることを重要視されていたのでしよう。そこからどのような縁があつたのか、一九九二年には、ご子孫にあたる西宮版画店のご厚意で、ラフカディオ・ハーンが手掛けた昔話のシリーズ五冊セットを購入することができました。一九九四年には桑原三郎先生がセンター報にハーンの『The Fountain of Youth』（若返りの泉）に関する論考を寄せられており、早速本学での研究に活用されていた様子うかがえます。その後も続々と、その他の言語の日本昔噺シリーズなどがコレクションに加えられていきました。中でも珍しいものとしては、フランス語版『日本昔噺シリーズ』の未製本資料が挙げられます。縮細加工・袋とじ製本される前の状態で、平紙の見開きの形で見ることもできます。また、一九九三年にはご子孫から版木二点が寄贈されました。一点は両面に、もう一点は片側のみに挿絵が彫られており、『舌切雀』『猿蟹合戦』『竹筒太郎』のそれぞれ一場面が確認できます。今年三月にNHKB Sで放送された番組「幻の木版画 ちりめん本」で、多くの版木が現存していることがわかりましたが、研究機関で所蔵している例はやはり珍しいと言えるでしょう。

ちりめん本を多数所蔵している大学は他にもありますが、白百合には未製本資料や版木といった書誌学にも興味深い資料があり、ちりめん本をさまざまな角度から研究

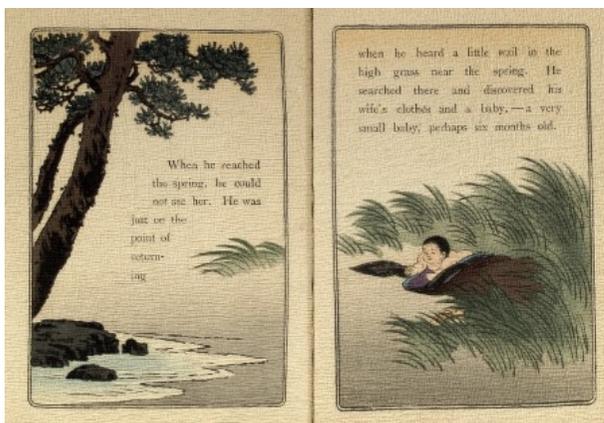
できる環境が整っているのが特徴です。

今回ご紹介した貴重書は特別な申請をしなければ閲覧できませんが、図書館では、過去に二回、二〇一六年と二〇一九年にちりめん本の企画展示を行いました。今後も展示の機会がありましたら、図書館ホームページ等でお知らせいたします。また、ホームページから見られる貴重書デジタルアーカイブでは、七十三点のちりめん本のデジタル画像を公開しています。主要な英語版作品と、一部の他言語版をどなたでもご覧になることができます。ちりめん本の世界をぜひ覗いてみてください。

〔本学図書館職員・研究員〕

〔画像〕白百合女子大学 学術リソース

貴重書デジタルアーカイブ（洋書）より



The Fountain of Youth. Rendered into English by Lafcadio Hearn, T. Hasegawa, Tokyo, 1925.

<https://opac.shirayuri.ac.jp/lib/resources/dspace/44223/>



プロジェクト活動報告

児童文化研究センターでは、センター構成員による研究の促進を目指し、プロジェクト制度を設けています。二〇二五年度は、次の四つのプロジェクトが活動しています。

小波日記研究会（小波日記を読む）

（研究代表 猪狩友一）

巖谷小波日記（センター所蔵の複写資料）の翻刻・研究を継続しています。およそ月一回のペースで研究会を開き、主に日記本文（くずし字）の解説と翻刻案の確認・修正を行っています。対面とオンラインを併用しており、どちらでも参加できます。現在明治四十年あたりを読んでいます。この頃の文学・文化に興味がある方なら、どなたでも歓迎します（くずし字が読めなくてもOK）。国語国文学専攻の院生も参加する場合があります。新規で参加する場合は、猪狩までメールで申し込んでください（メールアドレスは児童文化研究センターにお尋ねください）。研究会の開催情報や参加方法をお知らせします。

近現代児童詩歌研究

（研究代表 宮澤賢治）

『児童詩歌』刊行は、二〇号となりました。「雪わたり」の構成の秘密」は、宮澤賢治の童話の中の歌曲を童謡と明言した上で、賢治独自の幻想的でリズムカルな物語展開について検証しています。「竹久夢二」童謡 凧」に関する

研究ノート」は、夢二の最後の童謡集であり、夢二の童謡の集大成ともいえる『童謡 凧』を考察し、夢二の子どもに対する考え方と人生観を捉えています。「中川ひろたかの『新しい子どもたちの歌』研究（一）」は、「月刊音楽広場」に発表された新沢としひこと作品群を検証、中川の人びとの心に届くポップスとは何か、特異性とは何か論じています。

電子データでの公開にともない、多くの方にご高覧いただき、「意見」感想を賜いましたら幸いです。

ちりめん本研究

（研究代表 間宮史子）

本プロジェクトは大学図書館所蔵のちりめん本について研究することを目的としています。

昨年度は、尾崎みさんが『児童文化研究センター研究論文集 28』に「ちりめん本 Princess Splendor, the Wood-cutter's Daughter (1889) から鈴木三重吉の『輝夜姫』(1918) へ ― E. ローゼイ・ミラーによる『竹取物語』の子ども向け英訳と小林永濯の挿絵の影響力」を発表しました。深民麻衣佳さんはスペイン語版ちりめん本に関する研究発表をオンラインで実施しました。尾崎さんと浜名奈那さんが取り組まれているちりめん本関連書籍も二〇二五年春に発行されました。本年度も各自の研究を進める予定です。

絵本研究会

（研究代表 水間千恵）

昨今、美術館や博物館等での絵本展ブームに触発され、営利・非営利を問わず、図書館や託児施設以外の場所でも

絵本書架の設置や絵本展示が行われることが増えていきます。本プロジェクトは、このような活動を支えるための専門的知見の開拓を目指して、調査・研究を行います。今年度は、これまでの実践例の分析や研究方法についての検討などを行う予定です。

プロジェクトへの参加を希望される方は、センターまでお問い合わせください。

センターからのお知らせ

プロジェクト成果物の電子公開

二〇二四年度、白百合女子大学ウェブサイトにて、プロジェクト成果物の電子公開を開始いたしました。現在、公開中の成果物は、次の通りです。

- 「近現代児童詩歌研究」
- ・ 『児童詩歌』第一六〜二〇号 電子版
- ・ 『児童詩歌』第一六〜二〇号 電子版
- 『神宮輝夫先生のお仕事を振り返る』研究会
- ・ 「雑誌記事執筆時期タイムライン」
- ・ 「神宮輝夫執筆等記事リスト」
- ・ 『日本児童文学』特集名・編集委員「一覧」ほか
- （二〇二三年度成果物）

成果物はPDFでご覧いただくことができます。詳細は、

「児童文化研究センター／プロジェクト／プロジェクト成果物」のページをご覧ください。

<https://www.shirayuri.ac.jp/course/childctr/project/results/>

先生方の「近著」、「講演等

二〇二四年六月から二〇二五年五月までに刊行された、児童文化学科専任の先生方のご近著、ご講演、そして携わられた展示等をご紹介します。

(敬称略)

図書

- トミヤマユキコ「単著」『バディ入門「ツレ」がいるから強くなれる!』大和書房、二〇二四年九月
- トミヤマユキコ「分担執筆」『マンガがルツキズムから救ってくれる?!』矢吹康夫監修『人は見た目!?!?ルツキズムの呪いをとく!』②ルツキズムが起きるわけ』フレール館、二〇二四年十二月
- トミヤマユキコ「分担執筆」『女子マンガが教えてくれること』伊藤公雄ほか編『ジェンダーで学ぶ社会学』(第四版)』世界思想社、二〇二五年一月

雑誌・新聞

- 山中智省「人権カルチャーセッション」[Series 4 中高生向けブックレビュー] まさきたま著、クレタイラスト『TS衛生兵さんの戦場日記』『TOKYO人権』第一〇二号、二〇二四年六月三十日
- 水間千恵「名作これ読んだ?」『朝日小学生新聞』二〇二四年六月二十日、八月二十一日、十月二十四日、十二月十九日、二〇二五年二月二十日、四月十四日

○問宮史子「紙面協力」(「大図解」昔ばなし 語りの魅力と法則 (No. 1706)) 『東京新聞サンデー版』二〇二五年三月十六日

○山中智省「児童文庫」『繋がり』が生み出す多彩な物語『日本児童文学』二〇二五年五月・六月号

データベース

○山中智省「分担執筆」『レーベル』日本近代文学館編『日本近代文学大事典 増補改訂デジタル版』ジャパシナレッジ収録、講談社、二〇二五年二月(更新)

講演・講義

- 水間千恵「絵本各論①」令和六年度絵本専門士養成講座(第十一期) 講師、独立行政法人国立青少年教育振興機構、国立オリンピック記念青少年総合センター、二〇二四年六月十六日
- 水間千恵「子どもの読書を考える事典」作り手から読み手へ」教文館九階ナルニア書店、二〇二四年七月三十日
- トミヤマユキコ「マンガは人生の参考書 面白いだけじゃない! 私達の人生を支えてくれる」富山県女性財団、2024 働く女性のためのセミナー、富山県民共生センター サンフォルテ、二〇二四年九月七日
- トミヤマユキコ「マンガで考える「らしさ」って何?」天童市総務部市長公室まちづくり推進係、天童市男女共同参画社会推進委員会事業、イオンモール天童、二〇二四年九月十四日
- 森下みさ子「路地裏のフアンタジー——「駄菓子屋」という異空間——」企画展「ふしぎ駄菓子屋銭天堂へようこそ」記念講演、群馬県立土屋文明記念文学館、二〇二四年九月十四日

○水間千恵「未就学児と本をつなぐ——豊かな未来のために」令和六年度 鳥取県立図書館 児童サービス専門講座、エキバル倉吉多目的ホール(鳥取県倉吉市)、二〇二四年九月十九日

○森下みさ子「おもちゃの生命——民俗的想像力による思考法」日本遊戯療法学会 第二十三回研修会講演、オンライン開催 (Zoom)、二〇二四年十一月十七日

○トミヤマユキコ「10代の悩みに効くマンガ、あります!」信州岩波講座・高校生編2024、須坂市立須坂図書館、二〇二四年十二月五日

○問宮史子「グリム童話集の成立」昔ばなし大学 専門コース「グリム兄弟とグリム童話」二〇二四年十二月八日

○トミヤマユキコ「女子マンガには社会をサバイブする知恵があふれている」仙台市男女共同参画推進センター、男女共同参画推進せんだいフォーラム2024、エル・パーク仙台、二〇二四年十二月十六日

○問宮史子「テキスト変遷② 「いばら姫」昔ばなし大学 専門コース「グリム兄弟とグリム童話」二〇二五年一月十二日

○問宮史子「日本の昔話との比較① 「地藏浄土」鼠の楽土」と「ホレばあさん」昔ばなし大学 専門コース「グリム兄弟とグリム童話」二〇二五年二月二日

○トミヤマユキコ「マンガに学ぶ! 愛される企業づくりのヒント」山形商工会議所、令和六年度モノづくりネットワークセミナー、山形グランドホテル、二〇二五年二月七日

○問宮史子「テキスト変遷④ 「白雪姫」昔ばなし大学 専門コース「グリム兄弟とグリム童話」二〇二五年三月九日

展示

○水間千恵「協力・解説執筆」大阪府立中央図書館 国際児童文学館 出張展示『「ピーター・パン」の世界』
於・大阪市立中央図書館、二〇二四年八月十六日〜
九月十八日

センター研究会

児童文化研究センターでは、「児童文化研究センター研究会 前期／後期 発表会」といたしまして、「大学院生 研究発表会（博士論文構想発表・修士論文中間発表／修士論文発表）」と「構成員研究発表」を前期・後期に分けて行っております。詳細は児童文化研究センターホームページやメールリングリストなどお知らせいたします。

センター構成員一覧

(二〇二五年七月現在・敬称略)

所長

浅岡靖央

運営委員

浅岡靖央 井辻朱美 トミヤマユキコ 間宮史子
水間千恵 森下みさ子 やたみほ 山中智省

所員

浅岡靖央 猪狩友一 井辻朱美 トミヤマユキコ
間宮史子 水間千恵 森下みさ子 やたみほ 山中智省

客員所員

小澤俊夫 菊地浩平 白井澄子 松井千恵 宮澤賢治

助手

酒井志麻 宇佐美奈麻子 遠藤知恵子 若谷苑子

客員研究員

生駒幸子

委嘱研究員

木村八重子 竹田修

研究員

安達愛 石元みさと 伊藤かおり 奥田富美
尾崎るみ 金子真奈美 岸野あき恵 小林夏美
佐々木江利子 佐々木裕里子 志村裕子 鈴木あゆみ
鈴木宏枝 鈴木律子 陶山恵 ティシ、マリア・エレナ
中川理恵子 永島憲江 西村醇子 沼本知自
浜名那奈 半田涼太 枡村裕子 三井彩愛 宮崎麻子
八代華子 山本麻里耶 劉冠玫 和田啓子

準研究員

高島香 南口菜々

院生〔博士課程（後期）〕

伊藤かの子 原田優香 深見けいと

院生〔博士課程（前期）〕

相原彩乃 秋森玲香 西大條優香 牧野杏奈

*事前に、電子公開に同意していただいた方のお名前を掲載しております。

*センター構成員は、右に記した方々の他に、研究員二名、準研究員一名、院生〔博士課程（後期）〕一名、院生〔博士課程（前期）〕一名が在籍しております。

編集後記

今号では、今年三月に博士号を取得された沼本知自さん、新任のトミヤマユキコ先生、研究員で本学図書館職員でもある深民麻衣佳さんにご寄稿いただきました。また、ちりめん本関連記事の校正にあたっては、本学図書館でちりめん本が収集された当時のことを知るセンタースタッフがいけないという事情から、ちりめん本研究プロジェクトの皆様にご協力いただきました。ご執筆・ご協力くださった皆様に、心よりお礼申し上げます。

児童文化研究センターは、児童文学・文化の研究環境の充実にますます努めてまいります。今後とも、変らぬ指導とご厚誼を賜りますよう、お願い申し上げます。
(酒井・宇佐美・遠藤・若谷)

児童文化研究センター夏期閉室期間

七月三十日（水）〜 九月十八日（木）

* 右記の日程は変更することがございます。ご了承くださいます。

* 後期は九月十九日（金）より通常開室いたします（午前九時〜午後五時）。

**『白百合女子大学児童文化研究
センター研究論文集 29』原稿募集**

児童文化研究センターでは、児童文学・文化研究の活性化を目的として、年に一度、研究論文集（査読制）を発行しています。今年度も、以下の要領で『白百合女子大学児童文化研究センター研究論文集 29』（二〇二六年三月発行予定）の原稿を募集いたします。

締切

二〇二五年九月二十四日（水） 正午必着

提出物

- ① 表紙（論文題目、氏名、構成員の身分、郵便番号、住所、メールアドレス、文字数、投稿区分（研究論文／研究ノート）、申告事項（あれば）を記載）
 - ② 本文（参考文献、注、図、表等を含む）
 - ③ 論文要旨（300 字以内、論文題目を併記）
 - ④ 欧文題目（採用決定後、表紙の論文題目に併記）
- 以上、①〜④について、プリントアウト各一部及びデータを提出すること。

提出先

〒一八二一八五二五
東京都調布市緑ヶ丘一―二五
白百合女子大学 児童文化研究センター 宛

データの送付先

(cendo@shirayuri.ac.jp)

研究論文集担当 遠藤知恵子

審査規定（センター規定より抜粋）

- ※ 研究論文集審査のための編集委員会を設置する。
- ※ 編集委員は所長が依頼した、本学専任教員または

投稿規定

- ※ それに相当する者から構成される。投稿原稿は編集委員会の審査を経て、許可されたものが掲載される。
- 一 執筆者は原則として児童文化研究センター構成員とする。
- 二 児童文学・文化に関する研究論文、研究ノートを対象とする。
- 【研究論文】先行研究に加えるべきオリジナリティーのある研究成果が明確に述べられているもの。
- 【研究ノート】資料の紹介・精査、論点・仮説の予示、既存の仮説の検証作業、研究の中間報告等、優れた研究につながる可能性のある内容が明確に記述されているもの。

注意事項

審査結果発表

二〇二五年十月中旬

大学学術機関リポジトリで公開する。なお、執筆者がその他のクリエイティブ・コモンズ・ライセンスの選択を希望する場合は、原稿採用後に、その旨を「学術機関リポジトリ「内容記述」記載データシート」に記載すること。執筆者が当該許諾に同意しない場合は、その旨を「学術機関リポジトリ「内容記述」記載データシート」に記載すること。その意思表示のない場合は、同意したものと見なす。

完成原稿を投稿する。

- a. 原則として、数字は、横書きの場合は半角英数字、縦書きの場合は漢数字を用いる。いずれの場合も半角カタカナを使用しない。
- b. 特殊記号、飾り文字、不必要なスペース等をなるべく使用しない。
- c. 図版を掲載する場合、引用要件を満たし、出所を明示する。
- d. 画像は鮮明なものを使用する。高度な印刷技術が必要とする場合は、実費自己負担となることもある。
- e. 学会等で口頭発表したものを投稿する場合は、その旨を本文末に記載する。
- f. やむなく投稿規定を逸脱する場合は、その旨を表紙に記載して申告する。その内容は編集委員会で審議される。
- g. 採用した原稿についての著者校正は初校、再校のみとする。著者校正での誤字脱字以外の加筆修正は原則として認めない。
- h. 不明な点については、研究論文集担当者に問い合わせの上確認する。
- i. 本誌に掲載された著作物の著作権は著者に帰属する。当該著作物は、「クリエイティブ・コモンズ表示-非営利-改変禁止 4.0 国際 (CC BY-NC-ND 4.0) ライセンス」及びその後継版のもと、白百合女子版に準拠すること。